

第2回苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議会議録（概要）

- 1 日 時 令和元年7月9日(火) 14:00~15:30
- 2 場 所 苫小牧市民活動センター 多目的ホール
- 3 会議概要

●市長挨拶

3月に第1回目で市民会議を立ち上げ、今日の2回目は、男女平等参画都市を目指す上で、どういう方向で何をすべきなのかを皆様の意見を聞きながら、具体的に作っていかねばならないプロセスになります。

先般、議会で複数の議員から、SDG sの話があり、国連サミットで採択され、2015年から世界的にスタートし、日本でも色々な取り組みがあり、これは単に国民ベースだけではなく、経団連なども非常に熱心にSDG sの取り組みをスタートしています。17の目標と169のターゲットについては、事務局から後日送付させていただきます。（※SDG sの資料を添付させていただきました）

この世界的な取り組みであるSDG sが目指すところは、我々が目指している男女平等参画に関わるテーマが、いくつかの角度から複数のテーマに関わっていると強く感じています。5番目には、「ジェンダー平等を実現しよう」という項目があります。それだけではなく、17の目標の中には、我々が目指しているまちづくりに関わる考え方も含めて、これは追い風だなと思いながら議会での質疑を聞いていました。ぜひ、SDG sの17の目標と169のターゲットについて一度頭に入れていただきたいということをお願い申し上げたいと思います。

今日は、グループでワーキングをしていただくこととなりますが、ぜひ、一步二歩、三歩くらいで、具体的な我々の取り組み方針というものをイメージしていただきたいと考えており、今日はプロセスの上で重要なディスカッションになるとと思います。

目指すべき方向を共有しながら、忌憚のない御意見をどんどん寄せていただければ幸いです。心からお願いを申し上げます。今日もよろしくお願ひいたします。

●事務局説明（第2回開催の趣旨説明）

第1回目で皆様から多くの参考になるお話をより具体的な形で見える化し、今後の会議を進める上での土台にしたいと考え、事前に課題を御提出いただき、25個にまとめさせていただきました。

どの課題も重要で解決しなければなりません。今日は、男女平等参画を推進する上での優先度を協議する中で、皆様方の考えを共有し、今後の市民会議の方向性にもつなげていきたいと考えております。

まとめた25の課題については、カラーの一覧表（※資料2参照）で区分してみました。

課題色	課題内容
桃色	男性や女性の役割を決めつけ、活躍の場が狭くなっている、生きづらくなっている課題
紫色	DV、ハラスメント、障がい者やLGBTなどの少数者などの人権の課題
黄色	社会的な制度や環境整備、支援を課題
青色	働く場面での制度や長時間労働の課題
緑色	地域活動の担い手不足や本市として頑張らなければならない課題

●グループワーク（※資料3参照）

- ①最優先課題の選定（個人）※最大3つ
- ②25課題のランク付け（グループ）
- ③ランク付けした課題から①で選定した個人の最優先課題をグループ討議
- ④討議内容や経緯、メリットや未来像、気づいたことなどをまとめる（グループ）

●グループ発表

- ・市長

これからの発表は、このプロセスにとって、非常に重要と考えており、全体発表の経過を踏まえ、次のステージにチャレンジしていきたいと考えております。

発表の順番は、勝手に指名しますが、D、C、B、A。

この順番で、一応ルールは3分間ルール。

3分間でディスカッションのプロセスを表現していただければと思います。

・Dグループ（※資料4参照）

話し合いの中で、次のような声がたくさん挙がっていた。

ランク表の右上部分に最重要度課題と緊急度の意識が集まっている。

※No.1、16

- ・学童保育と保育園は、徐々に制度が充実し時間延長など、施策で行っている。
- ・働きながら子育てをする女性は、預けられる時間が長くなれば、非常に働きやすくなり、生活しやすくなり、両立しやすくなる。
- ・今後、両立には非常に有効な工作手段であり、充実させる必要があるテーマ。

※No.21、22

- ・環境、制度の問題では、改善するための意識が問題。
- ・家庭内での男性と女性、社会での役割は、従来通りではいけない。
- ・まだまだ踏襲されており、変えていけない部分がある。
- ・変えていこうという意識は、どんどん芽生えてきてはいるが、現実はまだ会社も社会も十分な現実には至っていない。

※まとめ

- ・制度、環境の整備、それに伴って意識も追従しながら、本当の意味で男性、女性が協力しながら子育てできる環境や仕事をしながら家庭も充実させることが、これから日本の社会にとって一番重要なことではないか。

・ Cグループ (※資料4 参照)

ここのチームだけ男性のみの企業人ということで、チーム名を「働きメン」とした。

話し合いの中で、ランク表は変化していった。

※No.1、2、3、6、9、16

- ・女性の活躍が最終的に緊急度、重要度どちらも高い。
- ・女性の活躍の観点から身近には、まだまだ専業主婦が多いのではないか。
- ・女性で管理職になりたがる人が、中小企業はそもそも入って来ないのではないか。
- ・意識自体が苦小牧市として、社会として、まずは育っていないのではないか。
- ・企業では制度として出来ること、出来ないことがあり、取り組みの中でも限界がある。
- ・やはり人の意識を変えるということは制度だけでは難しいところがある。
- ・市や社会として意識を変える教育や改革が必要ではないか。
- ・例えば、組織の中で女性が管理職になりたいと思うことは、子供のうちから男性らしい仕事や女性らしい仕事と、役割分担意識が段々と備わってきているため、工業高校は男性が多く、商業関係では女性が多いなどとなってしまうのではないのか。
- ・固定的な意識を解決すると、男女問わず能力や自分がやりたいこと、働き甲斐のあることを発揮できる社会が実現するのではないか。
- ・多様性のところで色々な働き方や環境ができれば企業としても、多様な人材が活躍できる場を提供できるのではないか。

※話し合いの中で気付いた点

- ・色々なことが実はすごくリンクしていること。
- ・保育園や学童保育といった問題、父親の育休がまだまだ取れないなど、すべてが繋がってくる場所があった。
- ・引き続きこの課題に取り組んでいきたい。

・ Bグループ (※資料4 参照)

- ・重要度・緊急度共に高いと考えたAランクには、男女間の意識の差。
- ・男女間の意識の差が、小さくなれば色々なところで決定される具体策にも大きな影響が与えられるのではないか。
- ・意識系の問題が一番大事と考えてランク表を配置。
- ・個別的な課題と考えられることは、外側に配置。
- ・色々な話をしていく中で出てきたのは、どれも大事。
- ・系統別に色分けされているが、全てリンクしている問題。
- ・どれも分けて考えるような問題ではない。
- ・どこからか上手く行き出すときっとそれが全てにいい影響を与えるのではないか。

・ Aグループ (※資料4 参照)

※No.1、3、5、9

- ・意識の問題が、かなり重いと考えている。
- ・固定的役割の全般意識が、まだまだ進んでいないのではないか。
- ・男性に男女平等の理解がない、男性に理解していただけてない。
- ・女性の理解はどうなのか。
- ・特に、子育てが本当に厳しい。
- ・女性だからやりなさいというような固定的な役割分担意識が、解決していない。

※No.13

- ・労働関係では、障がい者の労働環境が整備されていない。

※No.17

- ・扶養の範囲内で働かなければならない現状はどうなのだろうか。

※まとめ

- ・最初にランク付けをしたものからグループで話をすると違いがあることがわかり、また共通点も多くあるということを確認できた。

●全体会

・市長

この問題の捉え方は、やはり千差万別。一人ひとり皆違う中で少しでも傾向化を出していくためにどのような手法があるかという観点から、今日は、このような形でやっていただきました。この4つのテーブルからの発表を参考にしながら次のステージに進んでいきますが、CグループやBグループからの発表にもあったように、色々と考えてみるとやはりすべてリンクしているという指摘がありました。ここをどのように捉えて我々が政策、施策展開の中で市民、あるいは企業市民にアプローチして行けるのか、ということをしっかり考えていかなければならないということを感じながら聞かせていただきました。いずれにいたしましてもこれは時代のニーズ、時代の求めでありますから、好むと好まざるに関わらず我々はチャレンジしていかなければならないテーマでございますので、そういうチャレンジテーマであるならばできるだけスピード感をもって失敗を恐れずこの時代の求め、時代に近づいていくという努力を市が先頭になってやっていきたいということを改めて今日感じさせていただいた訳でございます。ぜひこれからも市民会議まだまだ続きますが、何か気付いたことがあったらどんどん声を寄せていただきたい。この次については、今回の結果やいただいた御意見等を参考に歩きながら考えますが、少しずつ市が本当に求めてやらなければいけないということは、そんなに時間をかけられないです。やるべきことをするには財政共有をスタートしながらやっていかなければならないこともあるので、我々も失敗を恐れず来年度に向けて、あるいはこれから2、3年先に向けてやるべきこと、あるいは市民、企業市民へのアプローチ、それから当年目指す男女平等参画都市のイメージ図というものを我々自身がもうちょっと具体的に持ち、進んでいかなければいけないと思いますので、ぜひ、そんな思いの中で皆様方にもまだまだご苦労いただくことになりますけども、よろしくお願い申し上げたいなというふうに思います。

・事務局（※資料5参照）

市民会議が目指す考え方を整理した資料になります。

これは、一昨年の日本女性会議のシンポジウムのコーディネーターで東洋大学の神田名誉教授が、男女平等参画を推進する上での地域の課題の位置づけをお話しいただき、事務局で図にしたものです。

三角の図の上から2番目から見ていきます。

人の幸せは、自己実現によりもたらされると言われています。

自己実現は、安全で安心な豊かな生活の上に成り立ちます。

安全で安心な生活は、個性や多様性を認め合う環境の上に成り立ち、個性や多様性を認め合う環境は、自分や他人の尊重と平等意識があって成り立ちます。そして、これらは個人の幸せがあり、最終的には社会の幸せがあると考えられた図です。

今回、提出いただきました課題は、この図のどこかに当てはまるものだと考えています。

そして、この市民会議は、男女平等参画を推進するための環境整備と風土醸成のための会議だと考えております。

市民会議は、地域を構成する土台の分野の方々にお集まりいただき、成り立っており、密接に関わり合っています。

下の図は、男女平等参画都市宣言からとらえた場合の市民会議の位置づけです。市民会議は、単なる参加ではなく、参画するというマインドの上に進めていけるように、御協力いただけましたら有り難いと思っております。

○メンバー：

皆さんに書いていただいた課題は、男女平等参画社会を目指すために全て必要な課題だと思います。そこでランク表では、A、B、Cとなっていますが、これが一つでも解決していくと男女平等参画社会に近づくこととなります。これは本当に大事な課題になったと思います。私たちは地域を構成する土台、市民団体、企業、行政であり、ここで今貰った参画の用紙（※資料5参照）の※印の下に◎で書いていますが、これは条例に書かれています。男女平等参画社会を実現するための条例の中に、市民団体、企業、行政の責務というところで、ここの4つが本当にスクラムを組んで今日のような課題を一つ一つ行政と共に解決していかなければならない責務があります。それを私たち団体は、36年間大事にしながら推進して参りました。今日のこの課題は本当に事務局の方が事細かに分かり易く提示して下さって、それを私たちがどのようにして営利するのか、倫理するのか、推移するのかということで皆さんと話し合っただけで済ませましたが、本当に今日のこの会は貴重な会だったと思います。こういうような整理の仕方を練習するという会議というのは一度もやったことありませんでしたので、今日はとても良かったなと私は思っています。私の隣に日本女性会議のときに企画部会長をしていた方や、企画の副部会長のもいらっしゃいます。まずは、企画部長の意見も聞きたいと思っております。

○メンバー：

日本女性会議で企画部の部長をさせていただきました。先ほどの説明にもありましたが、いただいた表（※資料5参照）については、神田先生からお話をいただいた時に本当にこのような形になっていて、こういうことを勉強する方もすごいなということで参考にさせていただきました。苫小牧市がこの会議を通して、一番てっぺんに上がれるようにこれからも皆さんと頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○メンバー：

皆さんの課題を拝見した時に、具体的な課題を色々挙げられていて、それが非常に参考になるというか、興味深いなと思いました。やはり日々職場や家庭やその他で過ごす中で見つかる小さな課題というのがそのまま男女平等参画の課題として訓練性を持ちうるというところは強く感じました。今日その勉強をさせていただいたということで、このグループワークを企画した協働・男女平等参画室の方に感謝申し上げます。

●その他

○メンバー：

一つ提案ですが、11月17日は苫小牧市が男女平等参画都市を宣言した記念の日です。そこで、毎年その日を苫小牧の男女平等参画の記念の日として、この1日は男女平等、1日だけでは困りますが、忘れないように意識をする日としてイベントを是非やっていただきたいと思います。それは食べてよし、会議もよし。そして今日こうやって市民会議に参加していただいた沢山の課題が記録として残っていますので、そういう発表などを出来るようなイベントを是非、やっていただきたいと思います。市長よろしくお願ひいたします。

・市長

そういう節目に何かしらのことをやりながら、繋ぎをやっぱりやって行くべきではないかというご提案でありました。検討いたしますが、何かしら、どういう催事が出来るかわかりませんが、今、年度途中ということもありますし、予算措置等の問題もあります。お金をかける、かけないではなくて、やはりメモリアルな一日をどう市民にアプローチ出来るかという観点から考えてみたいと思います。

・事務局

ワークライフバランス等企業表彰について（※チラシ参照）制度と11月27日（水）に開催する表彰式と働き方改革セミナーの御案内。

苫小牧市男女平等参画推進講座について（※チラシ参照）連続講座を平等社会を推進するネットワーク苫小牧と、苫小牧市男女平等参画推進センターとの共催で8月より開催する御案内。